



第 109 号

東稲ニュース

早稲田大学校友会東久留米稲門会

令和元年 11月10日発行
発行責任者 高橋 哲男
編集責任者 小山田朋樹
E-mail: bente-takahashi@jcom.home.ne.jp
http://higashikurume-toumonkai.com/
事務局 大矢 真弘 Tel042-475-8532

「秋の懇親会」 10月13日(日)開催！



当会の秋のイベントとして定着した会員の皆さんの懇親会（旧 秋の旨いもの会）が、10月13日に成美文化会館で行われました。今年の9月に入会されたばかりの岡部智亜希さん（平成21年度商学部卒）も参加され総勢37名となりました。今年は懇親会の余興として、東久留米奇術愛好会マジックBOXの松澤会長をお迎えして、マジックショー、とノコギリ楽器の演奏を楽しみました。今回は余興もある関係で、立食から初めて着席形式にして、行いましたが、落ち着いて飲食が出来、ショーも楽しく見られたとの好評をいただいた反面、他テーブルとの話が取りづらい等、反省点もありました。今後の会運営に生かしていきたいと思えます。盛り上がったところで、恒例の大島さんの伴奏、大矢さんの指揮により校歌斉唱し、散会致しました。



奇術愛好会マジックbox会長 松澤さん

会の告知板

【部会予定】

11月10日(日)	ラグビー観戦部会 対帝京戦	14:00	秩父宮ラグビー場
11月22日(金)	ゴルフ部会 三田会合同コンペ		<飯能グリーンカントリークラブ>
11月23日(祝)	ラグビー観戦部会 対慶応戦	14:00	秩父宮ラグビー場
11月23日(祝)~24日(日)	囲碁部会合宿		<秩父越後屋旅館>
11月25日(月)	ウォーキング&山歩き部会「紅葉の奥多摩鳩ノ巣溪谷」	08:00	東久留米駅改札口
11月28日(木)	映画鑑賞会 第66回『死刑台のエレベーター』	14:00	成美教育文化会館
12月1日(日)	ラグビー観戦部会 対明治戦	14:00	秩父宮ラグビー場
12月1日(日)	第4回役員会	15:00	中央町地区センター
12月1日(日)	歴代会長/部会長/役員忘年会	18:00	「寿美吉」
12月24日(火)	カラオケ部会「カラオケを楽しむ会」	18:30	オンチッチ
1月18日(土)	諸芸術鑑賞部会「ニューイヤーコンサート」	17:00	練馬文化センター
1月19日(日)	東久留米稲門会新年会	14:00	成美教育文化会館
2月27日(木)	映画鑑賞会 第67回「鉄道員」	14:00	成美教育文化会館
4月18日(土)	東久留米稲門会第26回定時総会	14:00	成美教育文化会館

【大学・校友会関係】

11月10日(日)	校友会三多摩支部大会	14:00	青梅市福祉センター
11月24日(日)	東村山稲門会総会	12:00	早大東伏見C
11月29日(金)	東京23区・三多摩支部合同会長懇話会	18:00	大隈会館「楠亭」
12月7日(土)	商議員フォーラム	14:00	早稲田アリーナ

<各部会定例活動一覧>

部会	11月				12月			
	日	曜	時間	場所	日	曜	時間	場所
女性カーク	14	木	10:00~	中央町地区センター	休会			
書道	10	日	13:00~	西部地域センター	8	日	13:00~	生涯学習センター
俳句	17	日	13:00~	商工会館	22	日	13:00~	生涯学習センター
囲碁	23~	日	合宿	秩父越後屋旅館	22	日	13:00~	成美教育文化会館
太極拳	9	土	10:00~12:00	成美教育文化会館	7	土	10:00~12:00	成美教育文化会館
	16	土	10:00~12:00	成美教育文化会館	14	土	10:00~12:00	成美教育文化会館
	30	土	10:00~12:00	成美教育文化会館	21	土	10:00~12:00	成美教育文化会館
バドミントン	毎週金		10:50-13:10~	東久留米スポーツセンター	毎週金		10:50-13:10	東久留米スポーツセンター

会の報告

◎役員会報告 2019年度第3回役員会が10月6日(日)16:00~生涯学習センターにて開催された。

<議事録概要>

高橋会長より、2020年度の三多摩支部稲門会の総会を来年11月22日(日)に開催する件とFM東久留米から12月以降に3名の会員の出演依頼があった等の報告の後、開会した。

1. 大学・校友会・近隣稲門会・三田会関係

- | | | | |
|--------------|-----------|-----------|------------------|
| (1) 三多摩会長会 | 8/18 (日) | 青梅市福祉センター | 高橋・山口・大矢 |
| (2) 早大代議員会 | 9/28 (土) | 大隈講堂 | 山口・小山田 |
| (3) 稲門祭実行委員会 | 10/2 (水) | 井深ホール | 中村・吉田 |
| (4) 小平稲門会 | 10/12 (土) | ルネ小平 | 高橋・大矢 ←天候不順により中止 |
| (5) 稲門祭 | 10/20 (日) | 早稲田大学 | 吉田・中村 |
| (6) 三多摩支部大会 | 11/10 (日) | 青梅市福祉センター | 高橋・小山田・山口・大矢 |
| (7) 東村山稲門会 | 11/24 (日) | 東伏見 | 未定 |

会計の清水氏より、稲門祭のサポートを目的として参加する際も交通費を支給した方が良いのではとの提案があり、次年度予算案を作る際に検討することとした。

2. 秋の懇親会

- (1) 日 時 : 10月13日(日) 14:00~16:00
- (2) 場 所 : 「成美教育会館」3階大研修室
- (3) 案内者 : 会員並びに市内在住の20代~70代の校友(約200名)に案内
- (4) 参加予定者 : 10月7日現在: 38名(若手校友1名参加予定)
- (5) 役割分担、手順等の確認と実行委員打合せ会の報告

3. 会長・部会長・役員忘年会 <12月の役員会当日>

- (1) 日 時 : 12月1日(日) 18:00~
- (2) 場 所 : 「寿美吉」(東横イン裏の蕎麦屋) 042-472-8400
- (3) 会 費 : 5,000円

4. 新年会

- (1) 日 時 : 2020年1月19日(日) 14:00~ <13:00~16:30 予約>
- (2) 場 所 : 成美教育会館3階 大研修室
- (3) その他 : 担当、内容等については、12月の役員会にて検討する。

5. 2020年度定期総会

- (1) 日 時 : 2020年4月18日(土)
- (2) 場 所 : 成美教育会館1階ギャラリー、3階大研修室
- (3) 講演者の件 : 正田浩司氏「武蔵野の段丘と湧水」
1983(昭58)年理工学部大学院卒 埼玉県立高校 地学担当教諭

6. 会費納入状況等

8月7日現在 納付者 139名 (予算計画 155名、予算計画より16名不足)

7. 広報関係

- (1) 東稲ニュースー記事の募集、印刷日時等
原稿締切: 10月25日(金)
印刷日 : 11月8日(金) 17:30~ 生涯学習センター印刷室

8. 組織強化補助金20万円の申請について

- (1) 稲門祭記念品購入の目標は達成済み
- (2) 稲門祭へふるさと賞の寄付(柳久保かりんとう 40袋)・・・送付済み
- (3) 体育関係部への寄付5万円
野球部→スキー部→応援部 → ラグビー部 → 水泳部→バスケットボール部→アチエー部
と寄付をしてきたが、今年度は体操部とした。(6/25振込済み)
<今後、ソフトボール部 → ボクシング部とする予定>
- (4) 若手校友の招待 — 秋の懇親会へ、9月のポストマンで案内済み

9. その他

- (1) 今後の役員会 12/1 (日)・2/2 (日)・4/5 (日)
(2) 映画鑑賞会 ①9月26日(木)「冒険者たち」、②11月28日(木)「死刑台のエレベーター」

10. サークル・部会関係

- ① 女性サークル ② ゴルフ ③ 囲碁 ④ 俳句 ⑤ 書道
⑥ 太極拳 ⑦ グルメ ⑧ 郷土研究 ⑨ ウォーキング&山歩き
⑩ カラオケ ⑪ 春秋野球早慶戦観戦 ⑫ ラグビー観戦 ⑬ 諸芸術鑑賞
⑭ 旅行同好会 ⑮ バドミントン

次回役員会：2019年12月1日(日) 15:00-17:00 中央地区センター第4会議室予定

◎秋季代議員会

9月28日(土)16時より、早稲田キャンパス8号館106教室にて定例の秋季代議員会が開催されました。開会冒頭校友会会長の田中総長から挨拶がありました。やや異例ではありましたが、総長は「世界で輝く WASEDA」のビジョンについてパワーポイントを使い30分超に亘って熱心に説明されました。抽象的な説明ではなく、かなり具体的且つ詳細なもので、参会者一同傾聴致しました。

次に代表幹事萬代氏が挨拶され、議事に入りました。協議事項は2018年決算承認と推薦校友候補者承認の2件、報告事項は5件でした。その中で、10月20日の稲門祭と今夏九州で行われた演奏旅行についてはやや詳細な説明がなされました。演奏旅行の説明はビデオが上映され雰囲気良く伝わりました。因みに来年は東北地方の予定です。

募金については、早稲田アリーナ募金、目標の20億円を超え22億円に上った旨報告され、2021年4月オープン予定の「村上春樹ライブラリー」の募金が新たに始まる事が併せて説明されました。

山口 謙二 記

◎稲門祭

2019年稲門祭は老若男女と多数のキッズを集めて盛大に開催されました。平和な時代そのものを見せつけた観でした。

私事ではありますが卒業後50年目を記念して最後のクラス会を企画致しました。全くじじいの集まりであり、リーガーロイヤルホテルに泊まる人、高田馬場のビジネスホテルに泊まる人と様々ですが50年前は100円前後の定食を生協食堂で食べた共通の貧しい時代を共有した仲間でした。

時節柄ラグビーの話題となり、ジャッカルが目が今の日本に必要な不可欠であると共通の認識で合意しました。今、世界はグローバルからローカルの時代が変わってきています。米国、イギリス、スペイン、香港、台湾の動向から見ても、私達の東アジア地域で、南北統一を悲願とする文政権の現状の韓国では、2020年軍事指揮権を米国が韓国に返還する事で合意していることなどから、経済的に中露朝韓対日米の対立が想定されます。旧英国領で隆盛発展したラグビーの、ノーサイドの心は大切にしたいものです。

吉田 清郎 記

部会だより 【活動報告】

<太極拳部会> 10月5日(土) 18周年記念パーティ

10月5日(土)、太極拳部会恒例の周年記念パーティーを開催しました。19年目のスタートです。いつものように午前10時より稽古をみっちりを行い、12時より新しいステージの始まりを祝し鮎貝さんの乾杯の音頭で幕を開けました。今回は成美教育文化会館の特別和室を使用しました。落ち着いて、ゆったりとして、黒目川の緩やかなカーブと緑の木々に目をやりながら、「太極拳」らしく心穏やかに素敵な雰囲気で行いました。

毎年のことですが、会員の奥様方には心のこもった手料理を沢山いただきました。味噌豆腐などおつまみに抜群！ また和洋の銘酒の差し入れもあり、あったかオデン、角上寿司などに舌鼓をうちながら話も弾んで大いに盛り上がり、楽しいひと時を過ごしました。

太極拳メンバー以外からも多くの友情応援参加をいただき、今年も楽しい記念パーティーとなりました。会のメンバーは、寄る年波には勝てずやや減少気味です。体力維持・増進にはピッタリの太極拳です。新しいメンバーの参加をお待ちいたしております。 渡辺 真司 記



<ウォーキング&山歩き部会> 第74回 ウォーキング (R1.9.30) 【羽村堰から玉川上水を歩く】活動報告

多摩川水系は現在でも東京の上水源の1/3ほどを占めている。江戸時代初期の1653年に、江戸市中へ飲料水を供給する上水（上水道として利用される溝渠）が、羽村堰から四谷まで玉川兄弟によって築かれ、今日尚、使用に供されている。我々がお世話になっている生活の水を、多摩川の取水口から流れに沿って訪ねてみようという趣旨をなぞった。

古来、「暑さ寒さも彼岸まで」と言うが、お彼岸を過ぎても夏が居座って、高麗巾着田の彼岸花が例年より2週間も遅く盛りを迎えているとテレビが伝えていた。去年のウォーキングでの、辺り一面紅色に包



羽村堰桜並木にて昼食

まれた光景が脳裏を過ぎり、今年の季節の移ろい遅れに、何かがおかしい、生活がシクシクこない気持ちを持った方も少なくないのではないだろうか。

千葉県に多大な被害をもたらせた台風 15 号の襲来により、当初計画より 2 旬も延期したにも拘わらず、未だ木陰が恋しい日の中、総勢 12 名（男 9 名、女 3 名）と少し寂しい人数で、JR 青梅線羽村駅に降り立つ。羽村堰まで 1 km 弱の下り坂の途中、たまたま「大菩薩峠」で知られる中里介山の墓所がある禅林寺があったので立ち寄った。幕末、虚無にとりつかれた剣士・机竜之助を主人公とし、甲州大菩薩峠に始まる彼の旅の遍歴の連載は約 30 年にわたり、作者の死とともに未完に終わった。長編の小説を読んだ方は少ないようだが、映画等で物語を知る人は多く、墓所を訪れた我々も何かの感慨を得たようである。

羽村堰は玉川上水の取水口であり、ここから四谷までの全長 43km、高低差が 92m しか無い為、武蔵野台地の尾根筋を選んで引かれている。測量機器のない昔に、僅かな高低差の工事をどのように行ったのかと、ウォキング参加者が異口同音に口にしていた。かつては多摩川本流に丸太で水をせき止めた投げ渡し堰が造られたが、明治時代に現在の近代的な設備が完成した。大きな多摩川の流が二手に分けられて流れて行く様子を、子供のように飽きずに眺めていた人も少なくない。その後、羽村堰から玉川上水の堤の桜並木を歩き、この季節なら日差しを求める筈のところなのに、木陰を求めて昼食をとった。取水された水の大部分は、取水堰の下流約 500 メートルに位置する第 3 水門から埋設鉄管によって山口貯水池（狭山湖）・村山貯水池（多摩湖）へ送水され、最終的には東村山市にある東村山浄水場で利用される。残りの水は武蔵野らしい雑木林の中を、澄んだ状態を保ったまま、ゆったりと下流に向かって流れて行く。流れに沿って緑道を 3 km 弱歩き、緑道が切れる部分は福生（ふっさ）駅から拝島駅まで JR 青梅線に乗って凌いだ。

拝島から再び玉川上水に沿って木陰の道を 7 km 弱歩き、今回の最終目的地、西武拝島線の玉川上水駅迄を辿った。行くに沿って、上水の両岸の雑木が幾重にも重なり合い、せり出して、澄んだ流れの水



玉川兄弟銅像前にて

面に映える景観が続くのは、このウォキングの妙味である。西武拝島線の踏切を越えてからしばらく行くと、右手に昭和の森ゴルフコースの広々とした緑のフェアウエーを遠景しながら進む。その先、西武立川駅に近い辺りでは、戦時中に軍事工場の滑走路の為に蓋が掛けられ暗渠となり、現在開けた公園となっている場所を通る。更に進んで天王橋を過ぎると、玉川上水がサイフォンの原理で残堀川の下を潜っている、川同志の立体交差に興味をそそられ、しげしげ

と目を凝らしたものである。この辺りでそろそろ疲れてきたのを少し頑張っ、国立音大の脇を過ぎると、漸くゴールインとなった。

ここまで流れてきた水は、玉川上水駅付近の清願院橋から 300 メートルほど下流にある小平監視所で取水されて、東村山浄水場及び現役の農業用水路である新堀用水の双方に送水されている。東久留米にり、恒例の打ち上げを行った。東海 俊孝 記

※第 75 回 ウォキング & 山歩き (R1. 10. 21 予定) 【高山不動尊から関八州見晴台】は、台風 19 号の影響による登山道の安全性の問題により中止としました。

<俳句部会>

題：秋桜 秋刀魚 席題：石

<高点句>

名月や野良猫群るる石畳

コスモスの揺らぐ草原空広し

石段に影の伸びゆく九月かな

男あり晩き夕餉の秋刀魚焼く

<自選一句>

道端の石の上なる赤とんぼ

はらわたの苦きも嬉し秋刀魚かな

コスモスや今年も増えた休耕地

コスモスは地上に降った星屑か

波荒き北海想ひ秋刀魚焼く

菩提寺の石段のぼる萩の花

小さな手石ころ並べありと遊ぶ

片平るみ

比護喜一郎

杉本達夫

安宅武一

神田尚計

川島知子

三浦洋子

馬場清彦

大久保泰司

橘優治

横田慧子



第 231 回 10 月 20 日(日)

兼題：鯪 薄紅葉 席題：神仏全般

<高点句>

ごりの棲む下は友禅流しかな

台風禍神の有り無し問ふてみる

彼岸花僧衣バイクで坂のぼる

<自選一句>

山燃えてゆっくり里は薄紅葉

歓声の弾けるバスや薄紅葉

いつの間に狭庭彩る薄紅葉

大風に耐へて残りし薄紅葉

鈍行の街それぞれの薄紅葉

ほとけ恋ふ金木犀の香の中に

その姿まだ見ぬかじかよき響き

やがて来る紅葉の端の薄紅葉

大久保泰司

川島知子

杉本達夫

馬場清彦

比護喜一郎

神田尚計

三浦洋子

片平るみ

橘優治

横田慧子

安宅武一



<書道部会>

第 10 回書道部作品展が武藤先生はじめ部会員 10 名で 10 月 25 日から 27 日まで成美会館で盛大に開催されました。展示された作品数は 70 点以上、また前回同様ミニ作品も 50 点以上展示されました。初日は悪天候にもかかわらずご来場された皆様が一点一点丁寧に鑑賞されている姿に感銘を受けました。2 日目と 3 日は好天に恵まれご来場者数も 200 名を超えました。

今回は部会員それぞれ個性的な作品が多く、鑑賞後に、男性は、「人生はこうありたい」という生き方の指針になるような言葉を書いた作品が多く、女性は人の心をいやす芸術的な作品が多くみられ、その対称が面白かったという感想などを伺えて興味深く拝聴いたしました。



わたくし共は、臨書の大切さを心に刻みつつ、なお今・現在の自分に何が表現できるかを追求していくことも有意義なことではないでしょうか。今回は天皇陛下の即位の礼の直後の作品展であり、武藤先生が「令和の由来」である万葉集・梅花の歌の4行詩を渾身の力を持って書かれ、令和元年にふさわしい作品展となりました。

会の終了後は全作品の前で、武藤先生から全体の講評および個人個人への温かいコメントを頂きながら、それぞれは思い思いの反省や感想そして次回への決意などを述べながら、1時間くらいお寿司と、お菓子と、お茶で打ち上げをいたしました。

この度は幹事の吉田清郎様がおいしいお菓子の差し入ればかりでなく、搬入や後片付けのお手伝いをしてくださり、打ち上げにもご参加くださり、書道部を温かく見守って下さいました。そしてご来場者の皆様からの数々のお励ましのお言葉やご厚志には感謝の言葉もございません。紙面を借りまして心から御礼申し上げます。

最後に、ご多忙中にもかかわらず、ご来場くださいましたすべての皆々様に、部会員一同、感謝の言葉を捧げますとともに、わたくし共のつたない作品の中から、何か一つでも、心に残る書なり、言葉なりに出会うことができましたら幸いに存じます。

栄田 征子 記

<ゴルフ部会> 秋の稲門会コンペ

10月30日(水) 熊谷ゴルフクラブにて稲門会コンペを開催しました。当初、10月18日の予定が雨の為に延期となったことで、7人の参加とやや寂しいコンペとなりましたが、それまで続いていた雨もあがり素晴らしい天気の中で楽しくラウンドできました。当ゴルフ場は、稲門会がコンペをやるゴルフ場では難しいコースの為、皆さん苦勞してスコアは全体的に良くない結果でしたが、そんな中で優勝は横田さんで初優勝でした。おめでとうございます。ベストは上原さんで、さすがに実力を発揮されました。

幸い遭遇はしませんでした。コース内にイノシシがでてきたようでコースの係員が対応しているのをききました。異常な雨により荒川沿いにいたイノシシがでてきたのでしょうか。

次回11月22日(金)は三田会との合同コンペが、飯能グリーンCCで開催されます。これまでの対戦成績は15勝15敗のイーブンで再スタートとなります。金子 孝司 記



新連載企画

・・・オリンピックこぼればなし・・・

幻のオリンピック

1952年(昭和27年)にフィンランドのヘルシンキでオリンピックが開催されました。日本はこのオリンピックに16年ぶりに参加、もちろん戦後初の参加となりました。

そのオリンピックに参加するべく、予選大会が行われました。私は北京から引き揚げ後の中学4年から体操に熱中しており、全日本高校選手権、全日本大学選手権、共に優勝するなどの成績が収められるようになっておりましたので、この予選大会にも参加しておりました。私の得意とするところは、床、

吊り輪、跳馬です。精一杯の演技をし、結果は6位でした。6位までがオリンピックに参加できることになっていましたので、合宿で練習を重ねていたところ、当時の日本は未だ貧しく、全競技団体から参加選手が1名ずつ削られることになりました。そのため、残念ながらオリンピックに参加することはできませんでした。

中学、高校、大学、と優勝を争った小野喬は、その後も体操世界で大活躍をしておりましたが、私も、社会人になった後も選手を続け、ソ連のオリンピックボイコットにあたり、自由圏のボイコット等で代わりに行われた世界青年友好スポーツ大会の名のモスクーで行われた世界大会に出場、吊り輪で5位、団体2位になったりしたものの、オリンピックとは縁がありませんでした。

馬場 清彦 記

オリンピック 14 か月前の都内観光



1963年、那覇高校の2年生の時に7月末から2週間、生まれて初めて沖縄を離れ、群馬県前橋市で開催された剣道のインターハイに那覇高校チームの一員として出場した。

当時の沖縄は、アメリカ軍の占領下にあり、本土に行くには、琉球列島米国民政府の発行する渡航証明書が必要であった。また、那覇から前橋に行くには、まず船で17時間かけて鹿児島へ。鹿児島から33時間かけて東京へ。そこからさらに前橋へ。と三日間をかけての大移動であった。

インターハイでは、わがチームは予想外の好成績を残せたからか、引率の先生の計らいで東京都内の観光をさせてもらった。我々2年生は、3年生とは別行動で「はとバス」にて「皇居」「歌舞伎座」「明治神宮」を廻る半日観光であった。その車窓から「武道館」や建築途中の「代々木の体育館」を見たような記憶がある。10月10日のオリンピック開催14か月前という

タイミングであった。

沖縄で行われた「聖火リレー」には、我々のクラスから2名出場したが、なぜか見には行かなかった。

安次峰 暁 記

編集部注

1964年の東京オリンピックの聖火リレーは、当時アメリカの統治下にあった沖縄でも行われました。沖縄に聖火が着いたその翌日には、台風による日程の遅れが心配され、聖火は分火され鹿児島に運ばれましたが、沖縄に残された聖火は、その後3日間に亘り3473人の手により沖縄本島をリレーされていきました。沖縄では、祝日以外の日の丸掲揚は許されていませんでしたが、聖火リレーの際の沿道は、日の丸を持った人たちで一杯でした。アメリカ軍はそのことを黙認したそうです。なお、鹿児島からは4つのコースに分かれて日本全国をめぐり、皇居二重橋で集火式を行い、国立競技場へと向かったそうです。

部会だより 【今後の予定】

<ウォーキング&山歩き部会>

ウォーキング & 山歩き (第 76 回) 奥多摩 鳩ノ巣溪谷で紅葉を探勝

日時：11 月 25 日 (月) 8:35 東久留米駅改札口集合 *雨天の場合中止

<映画鑑賞会> 第 66 回 11 月 28 日(木)14 時～ 於：成美教育文化会館

「死刑台のエレベーター」Elevator to the Gallows (1957 年 仏 92 分)

監督 ルイ・マル 音楽 マイルス・デイヴィス

出演 モーリス・ロネ ジャンヌ・モロー リノ・ヴァンチュラ

土地開発会社に勤める技師ジュリアン・タベルニエは 社長夫人フロランス・カララと密会を重ね、邪魔な社長を抹殺し完全犯罪を目論むが 現場に残した証拠の隠滅に戻り、電源を落とされたエレベーターに閉じ込められてしまう。会社前に停めたタベルニエの車が若いカップルに乗り逃げされ、別の殺人事件に発展する。仏映画界の新人監督 25 歳のルイ・マルは匂い立つような大人の魅力とヌーベルバーグを対比させるこの作品で 1957 年にルイ・デリュック賞を得た。アンニュイなモノクロ映像と即興演奏によるマイルス・デイヴィスのジャズ音楽が情事に溺れた行き場のない男女の姿を見事に浮き彫りにする。カレフの推理小説をマル監督が演出した処女作で罪を犯す現代人の空虚な心理を斬新な演出で鋭くえぐった傑作。 映画鑑賞会 記

<カラオケ部会> 12 月 24 日 (火) 18:30 「カラオケを楽しむ会」

1. と き：12 月 24 日 (火) 18:30
2. ところ：オンチッチ
3. かいひ：4,000 円
4. 連絡先：高柳康夫 TEL：473-3559 携帯：090-8741-8424

E-mail：y-takayanagi@watch.ocn.ne.jp

今年は、温暖化現象のせいか、予期せぬ自然災害が多発し、普段なら秋たけなわの 10 月に入っても、真夏日が続いて昼夜の気温格差が拡大し、身体がなかなか馴化できず、特に高齢者にとっては、厳しい日々が続いています。

他方、世界的に気象が不安定あるばかりではなく、米中貿易戦争、米朝協議、英国ブレグジット、雲行き怪しい中東情勢、それに深刻化する日韓関係等これまでに増して、見えざる不安感によりストレスは溜まる一方です。

こんな折、ひとときとは言え、楽しい気の置けない仲間と一緒にお腹の底から声を張りあげ、身の回りに絡みつくモヤモヤを吹き飛ばして気分一新、さわやかな気分には浸っては如何でしょうか。多くの皆様のご参加をお待ちしています。 高柳 康夫 記

<諸芸術鑑賞部会> <2020 年ニューイヤーコンサートのご案内>

恒例のニューイヤーコンサートが 2020 年 1 月 18 日 17 時より練馬文化センターにて開催されます。例年感動を呼ぶ素晴らしい演奏に、リピート客が増えて今年の 1 月公演ではチケットが完売、自由席も無くなった事から、来年度は、全て指定席になります。従来の 2 階の自由席は、指定席 B となり 2,500 円 (自由席 2,000 円) のチケットになります。従来の指定席は、指定席 A として 3,500 円のままで。席の確保が厳しくなっています。早目の申し込みをお願い致します。

指定席 : A 3,500円 B 2,500円 (旧 自由席)
申し込み先 : 小野 泰右 電話 478-3953 (携帯 090-7251-0648)
e-mail : t_ono_1120@yahoo.co.jp
(t と ono の間にアンダーバーがあります、ono と 1120 の間にアンダーバーがあります)

東稲広報室

<新入会員>



秋の懇親会に参加の岡部智亜希さんとご子息

岡部 智亜希さん (大門町在住)
平成 21 年度 商学部 卒

佐々木 堯さん (浅間町在住)
平成 21 年度 政治経済学部 卒

入会ありがとうございます。当会は、部活動も充実しております。是非ご参加を。

<「秋の懇親会」特別会計の収支報告>

10月13日(日)開催の「秋の懇親会」の収支は以下のとおりでしたので報告します。

〔収入〕 会費…108,000円 (会員34名×会費3,000円
+ご家族・寄付6,000円)

〔支出〕 公演謝礼…30,000円 飲食費…102,858円 その他会場費等(什器・備品含む)…9,200円

〔収支〕 34,058円の不足…本会計「イベント補助金」から補填しました。 会計：清水 正弘

<稲門祭福引の結果>

職域賞 (伊藤毅 村野建彦) ワセマチ賞 (中村敏明) 校友会賞 (鮎貝盛和 河村洋子 笹井瞭三 橘優治 別处尚志 山口謙二 渡辺真司 小野泰右)
敬称略 当選された方、おめでとうございます。



函館の旅

昭和44年 理工学部 坂井 淑晃

〇さんが高校時代まで過ごしたという函館、ご案内くださるというご提案に飛びつきました。以前から行きたいと仰っていたもう一方を含め、できるだけ多くの方が楽しめればと東稲会の仲間たちに声をかけたところ、2泊3日4食付きの格安ツアーに7名の参加者が集まりました。

あいにく9月8日には台風15号が関東に接近、ANA便が飛ばない危惧が出て来て、ツアー会社からは「催行中止となる場合のご案内」というメールも到着しましたが、羽田発の最終便はほんのちょっと揺れただけで、東京からの脱出に成功したのであります。

バスで空港近くの湯の川温泉海羊亭に到着したのは、周囲が暗くなってから。早速、海鮮バイキング料理に向かいました。夕方6時開始なのに7時半過ぎの入場のため、カニ足やいくらなど人気メニューが残っているかどうか心配したからです。幸い定期的な補充で杞憂に終わり、展望露天風呂を楽しんだあとは、四人部屋の座敷テーブルにコンビニ調達のアルコールとおつまみを並べて、初日の仕上げの小宴会となりました。

折しもテレビでは、東京や千葉を直撃した暴風雨の様子が報道されています。ほんの3日前に突然発生した15号は豆台風と言われ、せいぜいでも並の迷惑台風だろうと当初は高を括っていました。ところが、瞬間最大風速のニュースを聞いてびっくり、自宅の古い屋根が無くなったりしないかと急に心配になって来ました。中心付近での急激な気圧傾度が強風の原因だそうです。それにスマホで調べてみると、昭和29年(1954年)の9月に函館港で洞爺丸事故を起こしたのは台風15号、昭和34年の伊勢湾台風も15号だったとか。不吉です。

一方、あとは寝るだけのアルコールが効いていらっしやるのか、はたまた堅牢なご自宅なのか、小宴会はどこ吹く風、盛り上がっています。しらふで聞いているのも時には良いもの、しかしながら飲めない欠点はそのあとも続きます。気持ち良さそうな大いびきと、15号に曝されている屋根が飛び交って、なかなか寝つかれないのです。



函館市内の散歩

それでも明けた函館の朝は、ウソのように気持ちの良い青空でした。緊急電話はありませんでしたので、無事だろうとさっさと朝食を済ませ、楽しみにしていた市内観光を開始しました。

函館は、戦国時代に湾入口の漁村(現在の弥生町)に建てられた館が箱に似ていたことから、当初「箱館」と呼ばれていたそうです。明治2年(1869年)松浦武四郎の意見書に基づき、蝦夷地が「北海道」と命名された折りに「函館」と改名されています。また、安政元年(1854年)の日米和親条約で、幕府は箱館と下田の開港を

決定、次いで英、露、蘭とも順次和親条約を結び、安政5年(1858年)には仏を加えて5カ国と修好通商条約(不平等条約)を締結して、長崎、兵庫(神戸)、神奈川(横浜)、新潟、箱館の5港を新たな貿易港として開港しています。

まずはホテルの近くから。明治31年(1898年)に巖律シトー会が開設したトラピスチヌ修道院です。のんびり見学して修道女手作りのマダレナを買い込み、市民の森売店でアイスクリームをいただきました。

次なる目的地は、元治元年(1864年)に竣工した西洋式城塞・五稜郭です。箱館開港時に箱館山の麓

に置かれていた箱館奉行所の移転先として築造されました。ところが完成からわずか2年後には江戸幕府が崩壊、明治元年（1868年）の箱館戦争で旧幕府軍の榎本武揚らに占領され、その本拠となった場所です。

五稜郭タワー辺りで三々五々お好みの昼食、ラッキーピエロの若者向けハンバーガーを選んだ次は、函館湾を見下ろす外人墓地に移動です。市電とOさん手配のタクシーを乗り継ぎました。すぐ隣の教会墓地には親族が眠っていらっしやるようで、花束が添えられました。

山麓には、箱形の館があった弥生町や、異国情緒豊かな元町が広がっています。開港当初は出島方式の外国人居留地が計画されながら、実際には有名無実化、市中に混在することになったそうです。旧北海道庁や元町公園、旧イギリス領事館、ハリストス正教会、カトリック元町教会など、当時の面影が伝わる名所をゆっくり散策しながら、有名な八幡坂を下ってベイエリアにある赤レンガ倉庫に徒歩で向かいました。この日の函館は、台風が運んだ熱気と湿気で今夏一番の蒸し暑さだったようです。途中にあった甘味処「花かんろ」のかき氷はとっくに無力化されていたので、早めにホテルに帰り、大浴場でリフレッシュすることになりました。

今度は6時の開始と同時にバイキング料理に突撃、前の夜に申し込んでおいた夜景ロマンスコースバスで函館山の山頂に到着した8時過ぎには、少し涼しくなっていました。海拔334mから見下ろす夜景は、ご覧の通りです。強風が霧を吹き飛ばし、幸運なひとときとなりました。

2回目の小宴会でくつろぎ、2回目の寝不足を甘受して、3日目は新川町の自由市場と空港で買い物と昼食です。函館の旅を提案してくださったOさんに感謝しつつ、静かな機内では2日半ぶりの昼寝を満喫することができました。東久留米のバス停を降りてから、遠くに以前と変わらぬ屋根を見つけたときは、やっぱりほっと一息、心配した甲斐がありました。

東久留米市では過去、小さな河川の氾濫などで浸水被害があったと聞いていますが、改修が進み、大河や断層からも距離があることから、災害には比較的強い町となっています。とは言え、近年は温暖化の影響からか台風の初上陸地点が東進・北上しているようで、風雨による被害が関東以北にも広がっています。数十年に一度、百年に一度のはずが、身近でも発生するようになると、つい好奇心に駆られて警戒心が薄くなりがちです。災害の餌食とならぬよう、遅しかった？昔は忘れるようにして、これからもしっかりと東稲会を楽しんで行きたいと思います。

<編集後記>

小中学生の時は、大の読書嫌い。学校に行くといつも校長先生から「岩波少年文庫を読み…」と言われていた反動かもしれない。読書を含め本全般に興味を持ったのは、中三の時にゲーテを読んだのがきっかけだった。憧れの人に近づくための手段であった。今は教養書が好きで毎日入浴しながら読んでいる。



文章を書くことや報告書を書くことは大学院で鍛えられた。でもまだまだ未熟である。今回このような役職を頂き、ある意味光栄に思っている。学習する機会を与えてもらったからだ。今まで以上に「東稲ニュース」が親しまれるよう努力したい。
(有賀 千歳)

編集委員：有賀 千歳（今回の担当）

小山田 朋樹、 片平 るみ 前川 初子